

「大東市企業紹介 ～株式会社オオニシ編～」

第12回は、「品質はひとりひとりが責任者」

株式会社オオニシでは、極力上下関係をつくらず、皆が同じ立場で意見を言いやすい環境をつくることで「ほうれんそうのおひたし」を実践されています。

お: 怒らない

* 意見を受け入れる→自主性に繋がる→品質に繋がる

ひ: 否定しない

た: 助ける

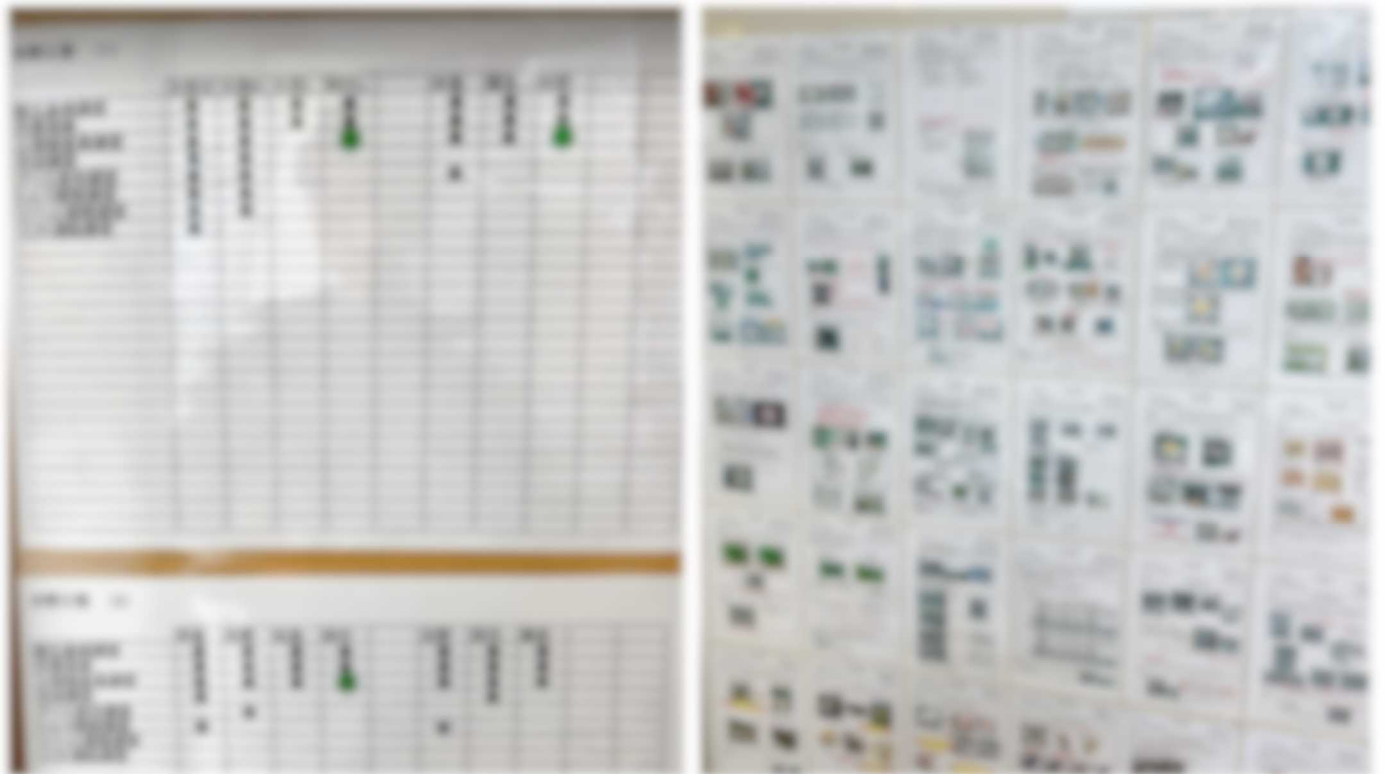
し: 指示する

ひとりひとりが責任者として、「ルールを守って確かな実行」の考えを基に仕事に向かい合うことで確かな品質を実現し、丁寧な仕事に繋がっています。

「ルールを守って確かな実行」では常に目に見える形で、商品それぞれの組立基準が社内に貼ってあります。

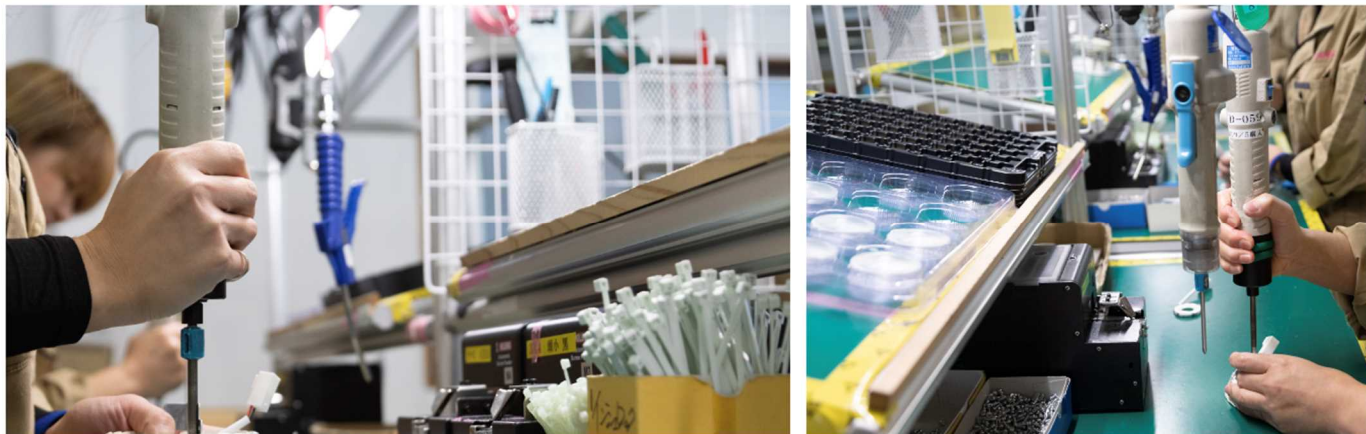
ひとつひとつの商品に対して、徹底した組立基準を遵守し、ルールの徹底をすることで、たしかな品質に繋がり株式会社オオニシに対しての信用と信頼に繋がっていると感じます。

【社員の方々のスキルマップと商品それぞれの組立基準と注意点についての写真】



徹底したオペレーション

そんな株式会社オオニシですが、現場のオペレーションが大変整っており、効率的に仕事に取り組めるように現場がレイアウトされています。



これも現場、ライン同士で意見を出し合うことで達成できたこと、そして、現場が責任感を持って取り組むことで、よりスピードアップ、臨機応変な対応力に繋がっている。それにより品質、納期の徹底に繋がっていると大西社長はおっしゃいます。

チーム内での教育の徹底

個々の作業スキルアップと多能工化で、誰が作業しても同じ成果を上げられる環境を作ることを目的に、以下4つの意識付けをチーム内で重点的に行っています。

- 個人の能力を十分に活かし、価値ある動きの実現
- 訓練、育成で運営能力の向上
- 教育で、作業の同一化により、ムラのない高品質の生産をする
- 管理者は、作業マンではなく、段取り教育をする者である

また、3～4人チームで業務を行い、3ヵ月～半年で一人前に品質を出せるようになり、その習得状況は、上記のスキルマップで見える化されています。

何よりも社内の一体感

社内の一体感を出すために大西社長は自ら現場にも入られるそうです。
現場を見ること、現場を歩くこと、コミュニケーションを取ることで、
よりよい環境づくりが出来るとおっしゃいます。

* 社員からは社長がよく話すので、黙っていてと怒られることもあると
大西社長は笑っておっしゃいました。

